

【 事業の成果 】

10月～2月迄 合計 8回開催（産後ケアDAY 4回、親子のひろば 4回）

■運営体制

産後ケアDAY：専門職 2名（助産師+保育士）、ボランティア 1名

親子のひろば：現場ボランティア 3名

■参加者（利用者）合計

親子 20組：保護者 23名 子 23名 ※キャンセル待ち 3組

■昨年との対比

両親揃っての参加や双子家庭の参加等、昨年とは異なる参加層へのアプローチが達成できた

助産師さんとたくさん話してお昼ごはんをゆっくり食べ保護者同士の交流も深まる

産後ケアDAY



親子のひろば



1歳3ヶ月の双子ちゃんボランティアさんのサポートの下、手づかみ幼児食をもりもり食べました

- ・「子が主役」ではなく「保護者のための場」
- ・子を見守るボランティアと専門職の連携
- ・助産師、保育士、調理師監修のとりわけごはん

「もっとこんな場があれば良いのに」「はじめて、誰かに我が子を抱っこしてもらってごはんを食べました」
「我が子がいつもよりも可愛く、愛おしく思えました」
「仕出し弁当ではなく、手料理なのが嬉しい」



【 今後への課題 】

産後ケアの場や、切れ目のない子育て家庭へのケアが必要不可欠であると改めて認識しました。現状の行政支援は金銭的な補助に焦点が当たっているように感じますが、金銭的な補助ではなく「共に子育てできる環境（孤立への対策・予防）」「保護者への人間的なケア（休息・生活へのケア）」が必要です。

「赤ちゃんって可愛い」「我が子が愛おしい」保護者がそう思える環境整備が大きな社会課題であり、当団体としてはいかに行政と連携して継続可能な事業運営を展開するか、が重要です。

【 アプローチ 】

新座市のみならず、周辺地域へのプロポーザル提出により産後ケア事業等の委託を目指します。また、**2024**年度上半期中にクラウドファンディングを実施し、産後ケアを求める市民の声、産後ケアに従事したい助産師等の専門職の声をクラウドファンディングにて収集し、より説得力のあるプロポーザル作成へ反映します。

次年度以降への活動につながる実りの多い事業となりました。ご支援を誠にありがとうございました。